



郡山市立谷田川小学校 学校だより

宇津峰

令和 6年度 第25号
令和 6年12月 3日
文責 校長 山下嘉寿夫

郡山市指定重要無形民族文化財「糠塚の三匹獅子舞」体験

糠塚の三匹獅子舞は、今から遡ること1200年以上も前、坂上田村麻呂が東北地方の蝦夷征伐に訪れた際、この地域が凶作により食べ物もなく、着物さえ買うことが出来なかった子ども達に同情し、子ども達に獅子舞を教え五穀豊穡を願ったことから始められたと伝えられています。歴史的に大変重要な郷土芸能です。この伝統的な獅子舞に今年も3年生が挑戦しました。



当日は二瀬公民館長 田母神様をはじめ6名の方においでいただき、舞いを習ったり、衣装を身につけたりと貴重な体験をさせていただきました。参加した子ども達は、初めて身につける獅子頭や衣装を身にまとい、嬉しそうに、そして少し恥ずかしそうに舞う姿がとても印象的でした。現在、この獅子舞は実際には行われていないということですが、いつの日か復活し、未来の子ども達に受け継いでいってほしいと心から願っています。そのためにも、年に1度ではありますが、谷田川小学校での獅子舞体験を継続していければと考えています。

様々な場面で力を発揮しました。～全校集会で賞状伝達～

11月28日の全校集会で賞状伝達を行いました。子どもたちがもっている力や個性を発揮しながらがんばっている姿を見ることができ、大変嬉しく思います。以下が今回表彰された皆さんです。おめでとうございます。



○小学生の税に関する習字展

佳作 6年 佐久間希彩

○第70回青少年読書感想文郡山市コンクール

準特選 5年 柳沼 千春

準特選 6年 宗像 晴基

入選 3年 熊田みつき

入選 4年 折笠 泰喜

○福島県児童作文コンクール

佳作 2年 石井颯一郎

佳作 6年 佐久間希彩

○第22回MOA美術館郡山児童作品展

銅賞 6年 宗像 晴基 (絵画の部)

○第58回子ども総合美術展

金賞 1年 佐久間智嘉 3年 鈴木 傑太

5年 佐藤 瑞希

銅賞 1年 佐藤 翔真 1年 諏訪部琴葉

1年 宗形 航希 1年 松崎 郁佳

2年 柳沼 奏汰 2年 石井颯一郎

2年 折笠 莉結 2年 吉成 純夏

3年 関根 寿人 3年 長南 和真

3年 平栗健太郎 3年 力丸 結衣

4年 松崎 凜 4年 力丸 結奈

5年 佐久間駿汰 5年 松崎 愛

6年 石井 彩菜 6年 石井 さえ

6年 南條 瑛太 6年 宗像 晴基

6年 弓田 健心

堂々と発表してきました。 ～第14回田村町少年少女の主張発表会～

11月30日（土）に開催された田村町少年少女の主張発表会に、最優秀賞に選ばれた6年 石井さえさんが学校代表として参加し、自分の考えを堂々と発表しました。また、6年 佐久間希彩さんは優秀賞に選ばれました。以下は、さえさんの発表原稿です。どうぞ、ご一読ください。

「好きなことを追いかけて」

谷田川小学校 6年 石井 さえ

カタリン・カリコ。この人物のことを知っていますか。新型コロナウイルスの世界的流行という非常事態が収束し、今、「好きなこと」が自由にできるようになりました。しかし、事態が収束するには「ワクチン」という大きな存在がありました。このワクチンを開発したのがノーベル生理学・医学賞を受賞したカタリン・カリコです。私は新型コロナワクチンを開発した人ということしか知らなかったの、くわしく知りたいと思いカタリンについて調べてみることにしました。



カタリンはmRNAについて長年研究し、新型コロナワクチンだけでなくmRNAをもとにさまざまなワクチンを開発していることが分かりました。ワクチンの開発にたずさわるまで、どのような人生を歩んできたのでしょうか。

カタリンは、当時社会主義体制だったハンガリーに生まれ、科学者からの手紙によって研究の道に進みました。そして、mRNAに魅力を感じ研究しますが、斬新でだれにも受け入れてもらえません。そんな時、ドイツの製薬会社でワクチンを開発することになったのです。教授からのパワハラや降格などの困難があった人生ですが、カタリンは自分の気持ちを曲げず研究を続けてきました。科学の世界が男社会だった時代に女性の科学者としてとてもタフに生きたカタリンの人生に、私はワクワクしました。

私がカタリンの人生を調べる中で心に残った言葉が二つあります。まず一つ目は、カタリンが研究を続けるのが難しくなった時に救ってくれた、ある研修医の言葉です。カタリンのよさを語ったその言葉は「失敗を素直に受け入れて、何度でもトライする。」

というものです。私は、うまくいかないと投げ出して逃げてしまうことがあるので、この言葉は心にぐっと響いてきました。どうしてカタリンは、失敗しても何度でもトライしたのでしょうか。それは、mRNAという、人生をかけてもよいと思えるような夢中になれるものを見つけたからだと思います。私もカタリンのように好きなものを追いかけて、何度でもトライしたくなるような夢中になれるものを見つけないと思いました。

次に二つ目は、「不安定な立場にいることは、悪いことばかりではない。不安定な立場にいることが、かえって自分をふり立たせて、がんばろうという気持ちにさせてくれたのです。」

という言葉です。この言葉はカタリンが昔を思い出して、語った言葉です。私が大人になっても、たくさんの困難が待ち受けていると思います。その時はこの言葉を胸に、ポジティブに考えて乗り越えていきたいです。

カタリンの人生について調べる中で、夢中になれることを見つけるすばらしさ、好きなことを追いかける大切さを知りました。私は、世界で活躍する仕事にあこがれを持っています。日本文化や歴史に興味があり、その魅力をできれば世界に伝えていきたいという思いがあります。未来にはカタリンのように挫折を経験することもあると思います。しかし、挫折や困難などの苦しい経験に負けないほど夢中になれるものが今、目の前にたくさんあります。それを最大限にいかせる、ワクワクする仕事に就きたいです。そのためにも、今、興味のあること、自分の気持ちがワクワクすることにどんどん挑戦し、好きなことを追いかけていきたいです。

【ちょっと一息 コーヒーブレイク】 ～子どもとの話題作りに～

12月3日は語呂合わせにより、1年で最後の月の12月に「サンクス（3）」ありがとうと感謝し、ある人の労をねぎらいましょうという日に、凸版印刷株式会社が制定したようです。とても素敵な日だなあと思える日だったので、今回の問題にしてみました。それでは、問題です。12月3日は誰をねぎらう日に制定されているのでしょうか。

- ① 妻 ② 夫 ③ 家族みんな

前回の答えは ③ ダイナマイト でした。